

令和4年度 幼児教育学科

自己点検・評価報告書

令和5年3月

富山短期大学 幼児教育学科

令和4年度 幼児教育学科 自己点検報告書

1. 建学の精神

(他部局で記載のため省略)

2. 地域・社会貢献

(1) 現状

- ①下記の活動を実施して地域・社会に貢献している。
 - ・富山県教育委員会委託による「アカデミックインターンシップ」を2回、実施した。
 - ・幼児教育センターの活動として「幼児教育研究会」を開催。年2回機関誌『越の子』を発行し、幼児教育をめぐる最新の課題について現場保育者と共有、富山県の保育・幼児教育の質の向上に貢献している。
 - ・多くの専任教員が、県内市町村主催の保育研修会等の講師として協力した。(詳細は「富山短期大学地域連携活動年報」に記載)
- ②教員、学生、卒業生、地域、行政と協働して、地域課題の解決やボランティア活動に取り組んでいる。

(2) 課題

- ①7、8月中に開催する「オープンキャンパス」の内容と「アカデミックインターンシップ」の開催内容の区別やねらいを再検討し、方法の工夫や改善を図る必要がある。
- ②幼児教育研究会は、次年度50回記念の開催となる。変化していく現場保育者の要望を的確に把握し、先進的な学びの場を提供していくことが引き続き求められている。
- ③ゼミでの調査研究成果や、地域課題解決の活動・サークル活動の成果を蓄積する仕組みを考える必要がある。

(3) 特記事項

- ①幼児教育研究会はコロナ感染予防対策を行った上、対面で開催することができた。「子どもの最善の利益と質の高い教育」を主題に、事前予約制で午前中は「子どもが主体となる遊び」と「保育施設の安全管理」をテーマとして、2つの分科会を行った。午後は『『個別最適な保育』とは?』をテーマに講演・意見交換を実施した。
- ②大学コンソーシアム富山の「学生による地域フィールドワーク研究助成」に5年連続採択され、今年度は「子どもの権利を子育てと保育に浸透させるー保育者・学生・子どもの視点ー」のテーマに取り組み、「チームワーク賞」を受賞した。「学生によるオレンジリボン運動」では全国63校の中から選出され、活動表彰を受けた。
- ③前年度に引き続き「南砺市子どもの権利条例策定委員会」委員に学科教員が委嘱され、子どもの権利条例づくりワーキンググループメンバーとして学生が参加した。

(4) 改善計画

- ①新型コロナウイルス感染症状況が改善されたことから「アカデミックインターンシップ」を1回にまとめ、定員を30名として委託を受け開催を継続する。
- ②第50回幼児教育研究会は対面での分科会・公開保育・講演会等を組み合わせた内容で、6月に実施する。
- ③ゼミ等での調査研究成果をデータベースとして蓄積し、学生・教員がアクセスできるようにする。

3. 教育目標

(1) 現状

- ①学科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。
- ②学科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し学内外に表明している。
- ③令和4年5～6月に学科教員が令和3年度卒業生の就職先訪問を実施、卒業生の様子を確認するとともに保育現場が求める人材を把握した。学科会議でも情報を交換し、教育目的及び目標が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。
- ④外部評価委員会を通して、地域・社会の要請に応じているか点検している。(事務部で外部評価委員会記録として保管)

(2) 課題

- ①教育目的及び目標の表現は社会の状況や変化を踏まえ、誰もが共通のイメージをもつことができ、成果を検証できるよう確認する必要がある。
- ②教育目的及び目標に関し、ステークホルダーから理解を得るための取り組みを確立する。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①入学時オリエンテーションで、学生への教育目的・目標の周知を継続して図る。
- ②学科会議で時間を確保して、教育目的及び目標の表現の明確化と確認を図る。

4. 学修成果

(1) 現状

- ①学修成果を、「学生生活のしおり」やWebシラバスで科目ごとに「学修成果別評価基準(ルーブリック)」として記載し、学内外に表明している。
- ②Webシラバスシステムを導入して、学生の学修成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。

(Web シラバスに記載)

- ③Web シラバスシステムを利用して、学生に毎時間及び各期末に「授業アンケート」を実施し、学生による学修成果の自己評価を数値化して、授業改善に生かしている。
- ④学期末ごとに、学生に対して「履修カルテ」を記入させ、学修成果についての振り返りをさせるとともに、教員もコメントを記入して学修成果を評価している。

(2) 課題

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。
- ②学修成果をさらに具体的で明確なものにし、一定期間内で獲得可能、測定可能なものにするように努める必要がある。
- ③学修成果の獲得を評価・判定する仕組み、評価・判定した結果をフィードバックする仕組みを定める必要がある。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①担当科目の特性を踏まえながら 5 つの学修成果の獲得のために教育方法等をさらに工夫する。そのことを通じて「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載を見直し、改善する。
- ②学修成果が、定量的または定性的な根拠に基づき評価できるものとなるよう検討する。
- ③Web シラバスシステムによる学生自身の学修成果と履修カルテによる自己評価を関連付けられるように整理する。
- ④「履修カルテ」の様式を見直し、学生がより明確に学修成果の獲得を評価・判定する仕組み、評価・判定した結果をフィードバックできるようにする。

5. 三つの方針

(1) 現状

- ①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。
- ②3 つの方針を踏まえた教育活動を行っており、前期末及び後期末に、「授業アンケート」や「履修カルテ」の記入を学生に求めて、「3 つの方針」の達成状況を確認している。

(2) 課題

- ①授業アンケートの対象となる科目と質問項目が整理されたが、回答しない学生や教員間の連携不足で、8割程度の回答率を得るのに苦慮している。
- ②履修カルテ記述内容の整理と活用の仕方、管理方法を検討する必要がある。
- ③保育・幼児教育をめぐる状況は、目まぐるしく変化している。その変化に目を光らせ

て、三つの方針を常に見直していくことが必要である。

④教育課程の全ての授業科目に学修成果が反映されているかどうか精査することが必要である。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①教務部と協議しつつ、教員間での連携を取ってアンケート方法を見直し、実施時間を確認して、回答率が上がる方策に取り組む。

②履修カルテの記入時期や内容・表記の仕方等の見直しも含めて、学生・教員共に活用しやすいものにする。

③保育・幼児教育をめぐる状況に目を光らせて、変更の必要性があれば三つの方針の見直しを図る。

6. 内部質保証

(1) 現状

①学内の自己点検・評価委員会と連動して、内部質保証に取り組んでいる。

②Web シラバスシステムを導入し、毎回の授業後及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。

③毎年度末に、学科の活動を学科会議で総括し「自己点検・評価報告書」を作成している。

④外部評価委員会の場で自己点検・評価活動を報告し、高等学校等の関係者の意見を聴取し取り入れている。(事務部で外部評価委員会資料として保管)

⑤報告書では現状・課題を踏まえて次年度への改善計画も記しており、積極的に活用している。

⑥教育課程懇談会を開催し学生や非常勤講師からの意見を取り入れている。

(2) 課題

①科目によっては毎回の授業アンケートを実施していないものもある。科目の特性に合わせて適切かつ可能な自己点検・評価の方法を工夫する必要がある。

②自己点検・評価報告書の形式変更により、学科内での点検項目を随時見直して記載内容の充実を図ることが課題である。

③建学の精神、教育目的・目標、学修成果、三つの方針、内部質保証の項目に関しては、「内部質保証ループブック」で、さらに充実させる。

④全ての専任教員で、教育の質保証を図る査定の仕組みを構築する。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①科目の特性に合わせた日常的な自己点検・評価の方法について、教員間で実践を交流し学ぶ機会をつくる。
- ②複数の教員で担当する科目における学習項目・内容・方法の情報交換を徹底する。
- ③引き続き年度末に振り返りを行い、より充実した自己点検・評価報告書として反映していく。

7. 教育の質

(1) 現状

- ①Web シラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、学修成果を可視化し査定する手法を取り入れている。
- ②教務部を通じて関係法令の変更等をメールや回覧で確認しており、法令を遵守している。(教務部で管理)
- ③「音楽表現技術Ⅰ」では、初回の授業においてアンケート調査を実施し、ピアノ等の未経験者と既経験者の習熟度別にグループ分けを行い授業の展開をしている。「英語」ではプレイスメントテストを実施し、授業展開の方法に役立てている。

(2) 課題

- ①授業アンケート結果をみると、学修成果に関わる自己評価・満足度が低い科目もある。アンケート結果を踏まえての授業改善が望まれる。
- ②教育課程の変更により、複数教員による担当科目が新たに開講されている。複数教員担当による従来から開講している科目を含めて、関連する科目との調整と連携が必要である。

(3) 特記事項

- ①今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大による授業形態の変化があったにもかかわらず、前・後期末の授業アンケートでは、学修成果は概ね良好で、学生の授業に対する満足度も上昇した科目が多かった。グループ活動やアクティブラーニングに対する評価が高かった。
- ②今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、対面と遠隔授業を併用する時期があった。オンラインによる授業や集団規模を縮小しての授業など、感染状況を見ながら柔軟に工夫して授業を展開し、教育の質を担保した。

(4) 改善計画

- ①各教員に授業アンケートの結果を踏まえての具体的な改善策を求め、学修成果の向上・定着を図る。
- ②「子どもと遊び」「保育教職実践演習」「保育・教育実習指導」など複数教員による担当科目の共通理解を深めるとともに、関連する科目との調整を行い、学びが有機的に結合できるようにする。

8. 学位授与方針

(1) 現状

- ①学科の卒業認定・学位授与の方針を定めている。
- ②学科の卒業認定・学位授与方針は学科の学修成果に対応しており、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も明確に示している。〔「学生生活のしおり」に記載〕
- ③学科の卒業認定・学位授与の方針は、短期大学評価基準と照らし合わせて点検しており、社会的・国際的に通用性があると考ええる。
- ④毎年5～6月に卒業生の就職先を訪問して、卒業生の様子を確認するとともに保育現場が求める人材を把握した上で学科会議でも情報を交換し、学科の卒業認定・学位授与の方針が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。
- ⑤教育実習及び保育実習終了後に、定期的の実習先の指導者の方との「実習懇談会」を設け、保育者に必要な資質能力についての意見を聴取し、学位授与方針に反映している。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、アンケートによる聞き取り調査を実施した。

(2) 課題

- ①2年後期末の「履修カルテ」を確認すると、自己評価の低い学生が存在する。
- ②実習先によって、学生に求める資質能力や評価の差が大きい。PCの操作能力が求められている。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①「履修カルテ」で自己評価の低い学生を早期に発見して、個別の指導を強化する。
- ②「履修カルテ」記入の機会を利用して、学科の卒業認定・学位授与の方針の理解を深める工夫をする。

9. 教育課程編成・実施の方針

(1) 現状

- ①学科の教育課程編成・実施の方針を明確に示している。〔「学生生活のしおり」に記載〕
- ②学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
- ③学科の教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、「幼稚園教諭二種免許状」の取得に必要な教職課程及び「保育士養成課程」を体系的に編成している。学修成果に対応した授業科目を編成し、細則を作成して単位数の上限を定める工夫をし、成績評価は短期大学設置基準等にのっとり適切に判定している。シラバスには必要な項目をすべて網羅し、学修成果別評価基準（ループリック）の記載も整備している。（Webシラバスに記載）
- ④学科の教員は、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に

配置している。

⑤教育課程の見直しについては、学科会議で定期的に行うとともに、年度末に「2年生と教員による教育課程等懇談会」を開催して、学生からも意見を聴取している。

⑥専任教員以外の授業担当者に対しては、隔年で「非常勤講師との教育課程懇談会」を設けて意見を聴取し、教育課程の改善に反映している。

⑦各実習の取り組み状況や課題を担当者で総括し、改善のための意見交換をしている。

⑧指定保育士養成施設指定基準にのっとり、「指定保育士養成施設自己点検表」を作成し、必要な点検を適切に実施している。

(2) 課題

①保育実践力の向上が求められている。その方策として、教育実習指導と保育実習指導及び保育内容指導法科目の連携を密にした授業改善や地域の子どもや保護者と直接交流する体験が必要である。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①教育実習指導・保育実習指導担当者・保育内容指導法担当で内容を調整し、関連科目も合同で模擬保育等を取り入れ、より効果的な指導を実施する。

②「子育て支援」授業において、地域の子育て・保護者支援活動をグループごとに企画し実践する。

10. 幅広く深い教養

(1) 現状

①短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう教養科目を編成し、実施体制も確立している。

②「教育課程編成図」を作成して、教養科目と専門科目の関連性を明確にしている。

③幼児教育学科独自の初年次教養教育として「基礎演習」を開講している。幼児教育を学び研究する際に必要となる6つの基礎力を身に着けることを目指しており、専門教育との接続を図っている。

④教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

(2) 課題

①教養科目である「自然と人間」「国際情勢」「国語表現」は、いずれも非常勤講師が担当している。連絡が取りにくいために学生の学修状況がわからない部分が多い。「授業アンケート」の結果をみると、学生の学習成果に関する自己評価・満足度は高くない科目も見られる。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①本学の特徴的な教養科目である「現代社会と人間」、昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて休講となったが、今年度は実施され、多くの学生が受講した。
- ②教養科目担当の非常勤講師との連絡を図り、学生の満足度も上がるように指導改善を依頼する。
- ③文科省から要請されている「数理・データサイエンス。AI教育プログラム」に対応し、「データ・AI・情報リテラシー」教育を開始する。

11. 職業教育

(1) 現状

- ①短期大学設置基準にのっとり、「幼稚園教諭二種免許状」の取得に必要な教職課程及び「保育士養成課程」を実施し、職業教育に取り組んでいる。（「学生生活のしおり」に教育課程表掲載）
- ②「教育課程編成図」を作成して教養科目と専門科目の関連を明確にし、職業教育の実施体制を明確にしている。
- ③Web シラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。
- ④「保育実習指導」「教育実習指導」等の授業科目において、学外実習に対する意識を高め、スキルを向上させるための指導を行っている。
- ⑤教育実習及び保育実習終了後に、定期的に実習先の指導者の方との「実習懇談会」を設け、保育者に必要な資質能力についての意見を聴取し、授業の見直しを図っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響でアンケートによる聞き取りを実施した。
- ⑥夏季休業中に「自主実習」を希望者に実施し、現場でのスキル向上を図っている。

(2) 課題

- ①専門職就職率は100パーセントに近いが、一般職に就職する学生も若干名存在する。資格取得に至らず、就業困難な状況の学生がみられるようになった。
- ②新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は前年度から繰り越した保育実習I-2を6日間、夏季休業中に学外で実施した。自主実習は期間中、コロナ感染の状況により、中止または縮小する場合があった。保育現場を直接経験する機会が減少し、就職先を選択する際何を基準にすればよいかわからず戸惑う学生が見られた。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①就職支援担当、クラスアドバイザー、ゼミ指導教員及び就職支援センターとの連携を密にして、不安を抱える学生への指導を充実させる。

②就職希望を踏まえた保育実習Ⅱ・Ⅲの適正な選択、保育現場見学等を積極的に進め、専門職への就職を今年度並みに維持する。

12. 入学者受入れ方針

(1) 現状

- ①入学者受入れ方針を明確に示している。「(学生生活のしおり)」に掲載
- ②入学者受入れ方針は学修成果に対応しており、学生募集要項に明確に示している。
- ③その他のチェックポイントは、入試広報センターが中心となって適切に実施している。(詳細は入試広報センターで記載のため省略)

(2) 課題

- ①入学者の中にはアドミッション・ポリシーを理解していない者がおり、早い時期に退学・休学する学生がいる。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①オープンキャンパスや入試説明会、進路ガイダンス等で、受験生への周知を図る。
- ②学生に協力を得て記載内容を点検し、必要があれば見直しを図る。

13. 明確な学修成果

(1) 現状

- ①学科の学修成果は明確に示している。Web シラバスで各科目の学修成果別評価基準(ループリック)を記載し、学習成果の具体化及び測定可能化を図っている。(Web シラバスに記載)

(2) 課題

- ①「学修成果別評価基準(ループリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①担当科目の特性を踏まえながら 5 つの学修成果の獲得のために教育方法等を工夫する。そのことを通じて「学修成果別評価基準(ループリック)」の記載を見直し、改善する。

14. 学修成果を測定する仕組み

(1) 現状

- ①教務部で Web シラバスシステムを管理しており、学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。(詳細は教務部で記載のため省略)

②2年間の学習成果を集約したものとして「総合演習記録集」を作成し、関係機関に配布している。

③学生に対して、学期ごとに「履修カルテ」を記入させ、学生自身にも学修成果を確認させている。

(2) 課題

①期末の授業アンケートに答えない学生、毎回の授業アンケートを記入していない学生が散見される。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①毎回の授業アンケートの必要性を科目担当者が説明し、具体的な援助を行う。

②「履修カルテ」の内容・表記の仕方等の見直しも含めて、学生・教員共に活用しやすいものに改善する。

15. 学修成果を可視化する指標

(1) 現状

①就職支援センターで資格取得率や専門職就職率等を調査し、公表している。

②教務部で「授業アンケート」の結果を公表している。

(2) 課題

①授業アンケートの対象となる科目と質問項目が整理されたが、回答しない学生がおり、意識付けや担当教員間の連携が必要である。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①教務部と協議してアンケート項目を見直し、担当教員間で確認しながら回答率が上がる方策を考える。

16. 卒業後評価への取り組み

(1) 現状

①学科教員が毎年5～6月に卒業生の就職先を訪問して評価を聴取し、学習成果の点検に活用している。

(2) 課題

①卒業生にとっては適切かと思われるが、訪問時期が早い為、就職後の評価としては不十分なこともある。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①6月の保育実習Ⅱ・Ⅲや9月の教育実習Ⅱ、10月保育実習Ⅰ-1、2-3月の保育実習Ⅰ-2等で訪問する際に、卒業生が勤務している現場では、該当者の評価を聴取するようにして学科会議で情報交換を図る。新卒以外の卒業生についても評価や状況などを聴取する。

17. 教育資源の有効活用

(1) 現状

- ①教員は学修成果の獲得に向けて責任を果たしている。Web シラバスシステムを利用して成績や授業アンケートを分析し、授業改善レポート等を作成して授業改善を心掛けている。(Web シラバスに記載)
- ②「履修カルテ」の記入を通じて、学生の学修状況を把握して支援を行っている。
- ③教室内のプロジェクターやプレイヤー設備を有効活用して、授業の改善に取り組んでいる。
- ④学内のコンピュータを学生の学習向上のために活用している。
- ⑤年度末に「2年生と教員による教育課程等懇談会」を開催して、学生からも施設設備に対する意見・要望を聴取している。

(2) 課題

- ①付属図書館の図書借入れが少ない。
- ②学内のコンピュータやプリンター設置状況や利便性が学生数に対して十分でない。
- ③プロジェクターや音響装置が老朽化し不具合が生じており、学生から環境や機材改善の要望が多く出されている。

(3) 特記事項

- ①新型コロナウイルス感染症の影響で分散しての講義を余儀なくされたが、その際の Zoom 使用でプロジェクター等が有効活用された。
- ②総合演習記録集の作成や発表をはじめ、授業レポート、課題作成等での PC 及びプリンターの利用が増えた。
- ③遠隔授業の導入や入力によるレポート提出や発表などが増え、個人で PC を所持する学生が増えている。

(4) 改善計画

- ①授業等の工夫を通じて付属図書館の利用と借入れを促進する。
- ②学生のパソコン必携に伴う環境の整備について、事務当局とも連携して対策を考える。
- ③老朽化した機材の買い替えや修理を要望する。

18. 学習支援

(1) 現状

- ①推薦試験合格者に対して入学前オリエンテーションを実施し、入学までの心構えを指導している。
- ②入学者に対しては、学習、学生生活のためのオリエンテーションを実施している。
- ③実習前に少人数で集まる場を設定し、2年生から1年生へ実習の心構えを伝え、教材紹介を行うなどしている。
- ④教養科目の「基礎演習」を通じて、学習の動機づけに焦点を合わせた学習の方法をガイダンスしている。
- ⑤学修成果の獲得に向けて「学生生活のしおり」などを作成し配布している。また、Webシラバスシステムを利用して、学生が自分の学修成果をレーダーチャート等で可視化して把握できるよう学修支援の整備を図っている。
- ⑥学修成果の獲得に向けて、各教員で小テストや課題提出等の工夫をしている。それでもまだ基礎学力が不足する学生に対しては、各授業担当者が適宜指導を行っている。
- ⑦学習上の悩みなどを持つ学生に対しては、担任やゼミ担当者が健康支援センターと連携して支援する体制をとっている。
- ⑧Webシラバスシステムを利用することで、学修成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。(Webシラバスに記載)

(2) 課題

- ①学業不振の学生が複数名存在し、実習要件を満たせない者もいる。
- ②欠席が多い、課題を整理して計画的に取り組めない等学習上の悩みを持つ学生が増えている。支援の在り方を検討する必要がある。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①クラスアドバイザーだけでなく、授業担当者や「基礎演習」及び「総合演習」ゼミ担当者間で学習に困難を感じる学生の早期発見に努め、適切な対応を行う。

19. 生活支援

(1) 現状

- ①学生部と連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。(詳細は学生部で記載のため省略)

(2) 課題

- ①経済的支援を必要とする学生が増えている。
- ②困難な中でもボランティア等課外活動に参加しようとする学生がいる一方で、自らは動けない学生もいる。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①学生部との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。
- ②学生のボランティア活動の参加を子育て支援サークルを含めて、さらに増やすことを目標として学生に働きかける。

20. 進路支援

(1) 現状

- ①就職支援センターとの連携により、積極的に進路支援を行っている。(詳細は就職支援センターで記載のため省略)
- ②学科内では、就職支援担当を決めて「進路指導計画」を作成し、きめ細かい就職試験対策を行っている。
- ③専門科目試験、面接・作文試験指導、就職模擬試験等、学科教員が担当して行っている。
- ④保育職や社会福祉施設に従事する卒業生からのアドバイスとして「先輩と語る会」を行っている。
- ⑤進学に対する支援も丁寧に行っている。今年は編入学希望者がいなかった。

(2) 課題

- ①学生の学力が低下傾向にあり、一層きめ細かい指導が必要になってきている。
- ②就職先をなかなか決められない学生が増えている。

(3) 特記事項

- ①ゼミ指導の教員も個別に面接や作文指導を担うようになって、よりきめ細かい指導ができるようになった。
- ②公務員採用試験（保育職）に11名が合格した。

(4) 改善計画

- ①就職支援担当・クラスアドバイザー・ゼミ指導教員の連携を密にして、個別指導の必要な学生への指導を充実させる。

21. 健康支援

(1) 現状

- ①学生部と連携して、学生の健康支援を積極的に行っている。(詳細は学生部で記載のため省略)

(2) 課題

- ①カウンセリングを必要とする学生が増えてきている。
- ②自己管理ができる学生もいるが、体調に不安を抱える学生が増えている。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①学生部との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。

②実習前の体調管理を徹底し、体調に関する必要な情報は実習先に伝えるよう指導する。

— (22～25の点検項目は他部署で記載のため省略) —

26、教育研究活動

(1) 現状

①専任教員は、学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。

②他のチェックポイントについては、教務部を中心として十分に取り組んでいる。(詳細は教務部で記載のため省略)

(2) 課題

①学生への指導に要する時間が多くなり、研究活動にかける時間が確保しにくいことがある。

②オープンキャンパスや入試等を土日に開催するために、学会参加が難しくなっている。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①教員間の連携で支援を必要とする学生への指導の負担軽減や行事担当者の役割分担を明確化し、調整を図る。

②オンラインでの学会開催が増えている中で、積極的に参加し、情報共有を意識的に図る。

— (27～38の点検項目は他部署で記載のため省略) —